

慈しむということ

善い念の代表は、慈愛、大悲、随喜、捨身の四つです。これを「四無量心」といいます。真言宗の重要な実践項目です。「慈・悲・喜・捨」と覚えてください。

第一番目の「慈」とは、愛情をそそぐことです。赤ちゃんをあやすお母さんは、まさしく仏さまの慈眼です。観音経に「慈眼視衆生」とあります。観音さまは、慈しみの眼で衆生を視ておられます。

すべての人には慈愛の念がそなわっています。この念は無くなるものではありません。慈愛は使うほど増幅します。赤ちゃんは愛情をそそぐほどすなおに育ちます。おしみなく情愛を伝えればいいわけです。ことわざに、「徳を以って怨みに報いる」とあります。たとえ被害を受ける相手であっても、慈愛の念を忘れずに接していくことです。

温情は徳の風になってなびいていきます。それゆえに、徳の高い人のそばにいただけでも、薫陶されて清々しくなります。徳のある人は、幸せな感じを与えますから、わざわざ呼び寄せなくても人々が群がってきます。

慈愛は、恐れも疑いも消して安心を与えます。

愛されているという思いがあれば、辛いことも平気です。

必要にされている愛念が感じられれば、元気が出ます。

お互いに慈しみあえば、黙っていても心は通じます。